深化させる３年目の「おさかな食べようネットワーク」

あけましておめでとうございます。

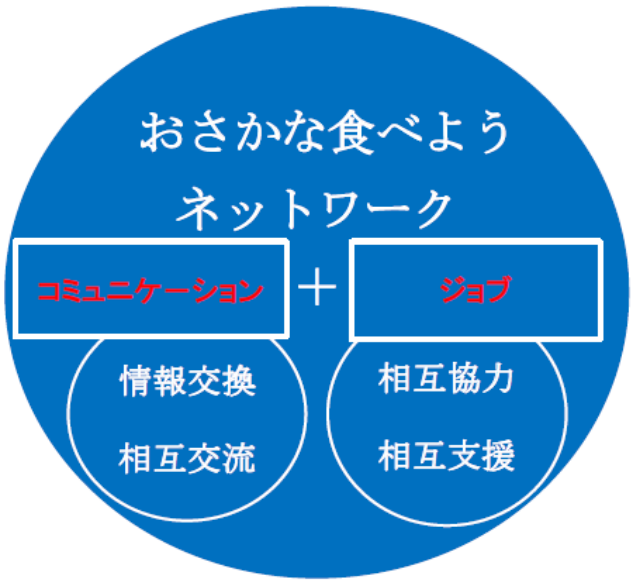
平成２４年１月３１日に発足した「おさかな食べようネットワーク」は３年目を迎えます。発足以来、会員他多くの方々のご支援で毎月のメルマガ発信を継続することが出来ました。この１２月には２３号の発信を迎えることが出来ました。ネットワーク設立で地域の水産業、水産業を支える方々の思いも日々伝わって来ており、各地の魚食普及活動、地産地消・加工・販売、学校給食への海産物導入の情報などを頂くことが出来るようになりました。このネットワークを開始するまでは、限られた足元情報だけだったのですが、今では全国の水産、漁業の情報交流、連携意識が芽生えつつあります。

非常に貴重な意識深化へのきっかけを得ることが出来ていると思います。現在の会員数は１４７です。会員数が少ないと思われる方もおられるかと思いますが、会員には個人会員のほかに、傘下に多くの会員を有する全国団体の参加も頂いており、裾野は大きく広がっております。

１．もう一度振り返るおさかなネットワークの試み：

ネットワークは次のような役割をめざしてスタートしました。

・魚食普及、食の普及活動で抱える課題、情報、経験の交流。
・交流する課題、情報、経験はそれぞれの魚食普及・食の普及から、みんなの魚食普及・食の普及へと連携を深め、課題の解決、活動の活性化に向けた連携を計る。
・行事・活動実施にあたり、それぞれの知見、能力、人材、資材などを持ち寄り、連携・協働して社会貢献、目的を達成する。

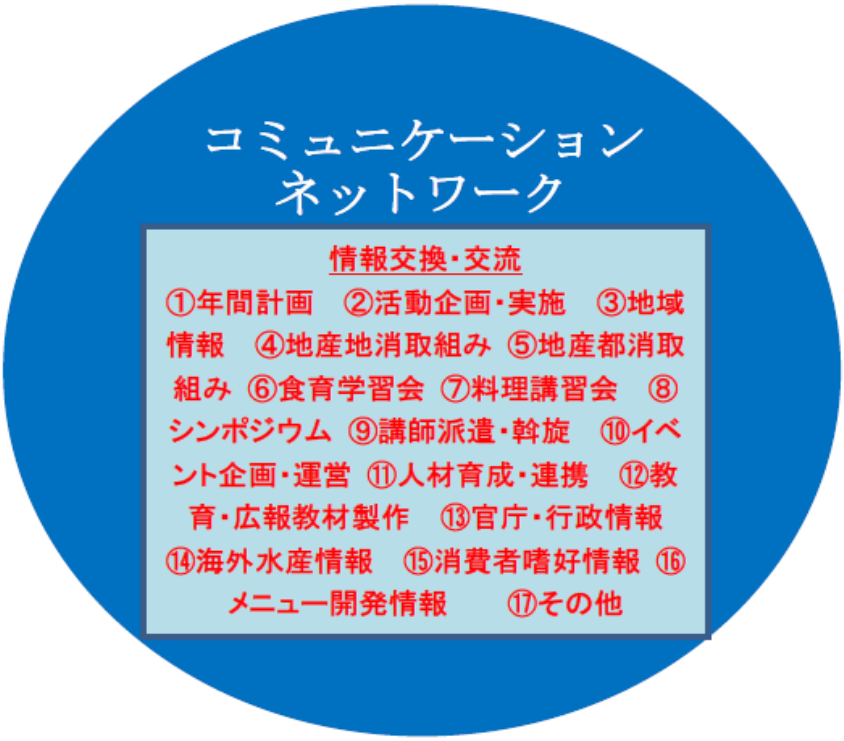


２．コミュニケーションネットワーク：

コミュニケーションのスタートとして、まずメルマガの月次発信を行い、またネットワーク交流シンポジウムの開催を行なって来ました。コミュニケーション交流を行い、関係者の視点を磨き合う試みを行ってきました。平成 24 年 6 月 29 日には『なぜ、魚食が大切か～魚ばなれに緊急提言～』を開催し、女子栄養大学鈴木平光先生他に魚の栄養、魚を食べることの大切さをお話し頂きました。11 月

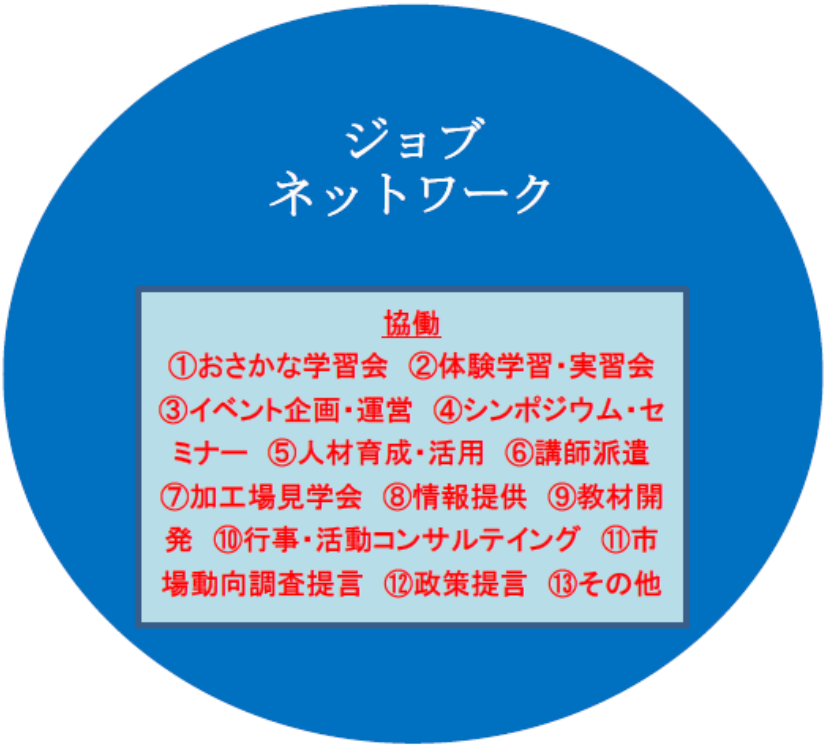
15 日には『魚食普及活動者全国大会』を開催、６地域から現役魚食普及活動者に出席願い、課題討論を実施、さらに水産物流通の各分野の意見を聞く分野別シンポジウムとして、5 月 29 日第 1 回『量販・鮮魚専門店に聞く～水産製品販売拡大の取組み～』、9 月 4 日第 2 回『消費者に聞く～どこで買う、どう選ぶ食・水産製品、課題は？～』、10 月 3 日第 3 回『流通・卸売業に聞く～その役割と課題～』を開催し、他分野から多くの方々の参加を頂き、意見交流を行うことが出来、流通・消費の多面的な学習の機会を持つことが出来ました。平成 25 年 6 月 28 日には「水産物消費拡大と魚食普及活動連携」として大手水産会社、消費者団体、栄養士の方に参加頂き、8 月 8 日『成長期の食育と国産水産物の活用～学校給食への水産製品の課題～』（補助金事業）として、学校栄養士、食材供給会社などに参加頂き、(以上の議事録は本会ホームページ上の「おさかな食べようネットワーク図書室」に掲載中です)、12 月 13 日には５大学から学生を招き、『若ものは魚食をどう考えるか』を開催し、５大学の学生を中心に水産物消費拡大への課題とアクセスにつき、若ものと来場者の方々に意見交流をして頂きました。

今後の消費拡大への参考にして頂くことが出来ました。業界紙、ネットワーク図書室を通じて、参加者、読者の方々の意識に新しい風が吹く機会になればと思っております。



３．ジョブネットワーク：

ジョブネットワークはコミュニケーションを越える大きな連帯感の実践です。昨年 8 月のジャパンインターナショナルシーフードショーでは、会場を活用し、『親子おさかな学習会』（補助金事業）を２回、栄養士が参加する『消費拡大セミナー』（補助金事業）を開催、昨年 11 月 10 日には「名古屋魚食普及まつり」（補助金事業）として、中部地域名古屋市中央卸売市場本場にある中部水産株式会社と連携し、本場開催の「２０１３ふれあい市場まつり」の一角を活用して開催しました。地域連携の初めての試みでした。本年は連携による魚食普及活動を多くの方々と進化させ、そして深化させる機会に進んで行きたいと思っています。



（栄養士の消費拡大セミナー）

（親子おさかな学習会）

（名古屋魚食普及まつり）

（名古屋魚食普及まつり-おさかなセミナー）

４．乗り越える課題もあります：

現状はネット活用の有意さの活用が十分ではない、と思うこともあります。ネットは網であり、漁網です。つながりは単一方向ではなく、双方向・多方向です。そして更に隣の網目につながって行きます。このことを考えるとまだまだ会員のコミュニケーション力は十分ではないのでは、と思うこともあります。双方向性がもっと必要かと感じています。首都圏など人口集中地域は市場提供の機能は高いものですが、そこに食材を供給するのは漁業、水産業の地方力です。資源を活用する地方力、地方に生かす地産地消力、そして消費地へ食を供給する地産都消力です。

今年の課題はもっと知りたい地産地消という地方力です。地方力を持って資源を有しない首都圏や多数人口地域の消費市場にいかにアクセスするかが、魚食普及、消費拡大への大きな課題かと思います。おさかな食べようネットワークを資源供給・活用の知力、意識力へ活用できれば何よりです。

先日全国学校給食甲子園大会の前夜レセプションに出席する機会がありました。学校給食メニュー開発コンクールの優秀者として選出された１２校チームの思いの発表がありました。水産品・農産品の地場産物を活用しようとする活用力の高さは印象的でした。水産物消費拡大に向けて前進しつつあることは確かです。今年もみなさんと課題に向けて連携して取り組んで行きたいと思います。

よろしくお願い致します。

（了）